

改訂日:2019年08月02日

## 製品安全性データシート


### 1.【製品及び会社情報】

カタログ番号 212522 (構成品 ID:212522a)  
 製品名 BD BBL™ TB 抗酸菌染色試薬キット K (TB カルボールフクシン液 KF)  
 会社名 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社  
 住所 東京都港区赤坂4丁目15番1号  
 連絡先 0120-8555-90  
 利用可能時間:9:00 - 17:00(土曜、日曜、祝日、弊社指定休日を除く)  
 使用上の制限 研究用試薬

### 2.【危険有害性の要約】

#### GHS分類

物理化学的危険	火薬類	分類対象外	
	可燃性・引火性ガス	分類対象外	
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外	
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外	
	高压ガス	分類対象外	
	引火性液体	区分3	
	可燃性固体	分類対象外	
	自己反応性化学品	分類できない	
	自然発火性液体	分類できない	
	自然発火性固体	分類対象外	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	分類できない	
	酸化性液体	分類できない	
	酸化性固体	分類対象外	
	有機過酸化物	分類できない	
	金属腐食性物質	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分4
		急性毒性(経皮)	区分5
		急性毒性(吸入:ガス)	区分外
急性毒性(吸入:蒸気)		区分外	
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		分類できない	
皮膚腐食性・刺激性		区分2	
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		区分1	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分外	
生殖細胞変異原性		区分1A	
発がん性	区分2		
生殖毒性	区分1A		

	特定標的臓器・全身毒性(単回曝露) 特定標的臓器・全身毒性(反復曝露)	区分1(中枢神経系、全身毒性、呼吸器、心血管系、神経系、腎臓) 区分1(中枢神経系、心血管系、消化管、肝臓、胸腺、脾臓、腎臓、血液系)
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性	分類できない 区分3 区分外
シンボル		
注意喚起語	<b>危険</b>	
危険有害性情報	引火性液体および蒸気 飲み込むと有害(経口) 皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮) 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 遺伝性疾患のおそれ 発ガンのおそれの疑い 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 臓器の障害(中枢神経系、全身毒性、呼吸器、心血管系、神経系、腎臓) 長期又は反復曝露による臓器の障害(中枢神経系、心血管系、消化管、肝臓、胸腺、脾臓、腎臓、血液系) 水生生物に有害	
注意書き	安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。</li> <li>・ 使用前に取扱説明書を入手すること。</li> <li>・ この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。</li> <li>・ 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。</li> <li>・ 防爆型の電気機器、換気装置、照明器具を使用すること。</li> <li>・ 静電気放電や火花による引火防止をすること。</li> <li>・ 個人保護具や換気装置を使用し、曝露を避けること。</li> <li>・ 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</li> <li>・ ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</li> <li>・ 取扱い後はよく手を洗うこと。</li> <li>・ 環境への放出を避けること。</li> <li>・ 容器を密閉しておくこと。</li> <li>・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。</li> </ul>

- 応急措置
- ・ 火災の場合には適切な消火方法をとること。
  - ・ 眼に入った場合には水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
  - ・ 皮膚に付着した場合には多量の水と石鹼で洗うこと。
  - ・ 衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
  - ・ 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
  - ・ 吸入した場合には空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - ・ 曝露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
  - ・ 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
  - ・ 気分が悪いときは、医師の診断、手当てを受けること。
- 保管  
廃棄
- ・ 涼しく換気の良いところで保管すること。
  - ・ 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。

### 3. 【組成、成分情報】

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名または一般名	濃度(%)	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
CI ベイシックレッド9	1-2	569-61-9	—	7-(4)-259 7-(4)-280
イソプロパノール	15-20	67-63-0	(2)-207	—
エタノール	2-6	64-17-5	(2)-202	—
フェノール	3.0-4.9	108-95-2	(3)-481	—

### 4. 【応急処置】

- 吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは、医師の診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、または取り除く。  
皮膚を石鹼と多量の流水またはシャワーで洗う。  
気分が悪いときは、医師の診断を受ける。
- 目に入った場合 水で15分間注意深く洗う。その際、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。  
洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球・まぶたの隅々まで水が行き渡る様に洗淨する。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 水で口の中をよくすすぐ。  
気分が悪いときは、医師の診断を受ける。
- 予想される急性症状 および遅発性症状 吸入: 咳、めまい、頭痛  
飲み込み: 咳、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失  
皮膚に付着: 発赤、乾燥  
眼に付着: 発赤、痛み

### 5. 【火災時の措置】

- 消火剤 小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤  
大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 棒状注水
- 特有の危険有害性 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある
- 特有の消火方法 消火作業は可能な限り風上から行う。

**消火を行う者の保護**  
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 容器周辺が火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。  
 移動できない場合は、容器に外部から放水して冷却する。  
 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

**6. 【漏出時の措置】**

**人体に対する注意事項  
 保護具および緊急措置**

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
 風下にいる人を退避させ、風上から作業する。  
 漏出した場所の周囲にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 作業者は適切な保護具(「8. 曝露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

**環境に対する注意事項  
 回収・中和**

流出した製品の河川、水路、下水溝などへの流出を防止する。  
 可能であれば、漏出源を遮断し、漏れをとめる。  
 少量の場合、可能な限り密閉できる空容器に回収する。回収後に廃棄処理する。  
 少量の場合、おがくず、ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。  
 大量の場合、盛り土や土嚢で囲って流出を防ぎ、防爆型ポンプなどで密閉できる空容器に回収する。

**封じ込め及び浄化の  
 方法・機材  
 二次災害の防止策**

危険でなければ漏れを止める。  
 漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
 全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

**7. 【取扱い及び保管上の注意】**

**取扱い**

技術的対策  
 局所排気装置・全体換気  
 安全取扱注意事項

『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
 『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。  
 屋外で取り扱う場合は、できるだけ風上から作業する。  
 着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に、また、発散した蒸気・ミストを吸い込まない様に適切な保護具を着用する。  
 取扱い後に手、顔等をよく洗う。  
 取扱い場所には、関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 電気機器類は防爆構造のものを用いる。  
 機器、設備には静電気対策を行う。  
 火気厳禁

接触回避

強酸化剤、強塩基との接触を回避すること。

**保管**

技術的対策

保管場所は壁、柱、床を対価構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。  
 保管場所の床は、床面に製品が浸透しない構造とすること。  
 貯蔵設備には静電気対策を施し、容器の帯電を防止する。

混触禁止物質

強酸化剤、強塩基

保管条件

容器は密閉して換気の良い冷暗所に保管する。

容器包装材料

火気厳禁  
 耐溶媒性密閉容器

## 8.【曝露防止及び保護措置】

製品としての有害性情報がないため以下 CI ベイシックレッド9、イソプロピルアルコール、エタノール、フェノールの有害性情報を記載する。

### CI ベイシックレッド9

管理濃度(作業環境評価基準) 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 未設定

ACGIH(TLV-TWA) 未設定

ACGIH(TLV-STEL)

### イソプロパノール

管理濃度(作業環境評価基準) 200ppm

許容濃度

日本産業衛生学会 400ppm、980mg/m<sup>3</sup> 皮膚

ACGIH(TLV-TWA) 200ppm A4

ACGIH(TLV-STEL) 400ppm A4

### エタノール

管理濃度(作業環境評価基準) 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 未設定

ACGIH(TLV-TWA) -

ACGIH(TLV-STEL) 1000ppm

### フェノール

管理濃度(作業環境評価基準) 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 5ppm 19mg/m<sup>3</sup> 皮膚吸収性あり

ACGIH(TLV-TWA) 5ppm 皮膚吸収性あり

ACGIH(TLV-STEL) -

### 設備対策

密閉された装置、機器を使用する。  
密閉できない場合は局所排気装置を設置する。  
取扱い場所の近くに、洗身シャワー、洗眼設備、手洗いを設ける。  
製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

### 保護具

呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク
手の保護具	耐溶剤手袋
眼の保護具	保護めがねまたは保護面
皮膚及び身体の保護具	不浸透性保護前掛け、長袖保護服、保護長靴

### 衛生対策

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。  
防毒マスクの吸収缶は定期的にまたは使用の都度更新する。  
眼、皮膚、衣類に付けない。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用する。  
この製品を使用する時に、飲食および喫煙をしない。  
取扱い後は顔や手をよく洗う。

## 9.【物理的及び化学的性質】

物理的状态、形状、色など	淡紫色の液体
臭い	特徴的な臭い
引火点	29.4℃:密閉式

燃焼点 データなし  
 溶解度(水) 自由混和

10.【安定性及び反応性】

安定性 通常の取扱で安定  
 危険有害反応可能性 強酸化剤と激しく反応する。  
 避けるべき条件 加熱、高温、着火源  
 混触危険物質 強酸化剤、強塩基  
 危険有害な分解生成物 一酸化炭素

11.【有害性情報】

製品としての有害性情報がないため以下 CI ベイシックレッド9、イソプロパノール、エタノール、フェノールの有害性情報を記載する。

CI ベイシックレッド9

急性毒性

経口 5000mg/kg  
 経皮 データなし  
 吸入 データなし

皮膚腐食性・刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷・刺激性

データなし

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

in vivo 遺伝毒性試験(コメット試験:マウスの単細胞ゲル電気泳動法)でDNA損傷誘発が認められた。複数指標の in vitro 変異原性試験(Reverse mutation (-S9)、Forward mutation、マウスのリンパ腫細胞 gene mutation など)で陽性結果が得られている。

発がん性

グループ2B

生殖毒性

データなし

特定標的臓器/全身毒性(単回)

データなし

特定標的臓器/全身毒性(反復)

ラット及びマウスの 13 週間(約 90 日)混餌投与による試験において、ラットの場合に 4000ppm での甲状腺腫と肝の脂肪変化、2000ppm (≒ 200mg/kg)以上での甲状腺の過形成と下垂体の好塩基性過形成を除き、ラット、マウスともその他は著しい影響は認められていない。同一条件下で実施された 2 年間発がん性試験ではラット、マウスともほぼ 1000~2000ppm (≒50~150mg/kg)で腫瘍の発生頻度増加に伴う死亡率の増加が見られるが、重大な非腫瘍性の毒性変化については記載されていない。(腫瘍性病変については発がん性で取扱われる。)上記 2 データより重大な毒性影響用量は 90 日間経口曝露でおおよそ 2000ppm (≒ 200mg/kg)と考えられる。(区分 2 のガイダンス値は経口の場合、10~100mg/kg)

吸引性呼吸器有害性

データなし

イソプロパノール

急性毒性

経口 3437mg/kg  
 経皮 4059mg/kg  
 吸入 72865mg/m<sup>3</sup> (29620ppm)/4H

皮膚腐食性・刺激性

ウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるがヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていない。

呼吸器感作性

データなし

皮膚感作性	なし
生殖細胞変異原性	in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性である。
発がん性	グループ3、A4
生殖毒性	ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能及び出生仔の発育に影響なかった。一方、ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた。
特定標的臓器／全身毒性(単回)	ラットでの吸入曝露による活動性の低下があるとの記述、及びヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓及び全身毒性とした。ヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性がある。
特定標的臓器／全身毒性(反復)	ラットでの86日間又は4ヵ月間吸入曝露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であるとした。
吸引性呼吸器有害性	ヒトに関する情報はないが、ラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められておりかつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、吸引性呼吸器有害性があるとした。
エタノール	
急性毒性	
経口	6200-15000mg/kg
経皮	20000mg/kg
吸入	3,837ppmV
皮膚腐食性・刺激性	ウサギに4時間曝露した試験(OECD TG 404)において、適用1および24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑および浮腫の平均スコアは全て0.0であり、刺激性なし(not irritating)の評価(SIDS(2009))に基づき、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギを用いた Draize 試験(OECD TG405)において中等度の刺激性(moderate irritating)と評価され(SIDS(2009)、DFGOT Vol.12(1999))、適用後1~3日目に角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められ、MMAS (Modified Maximum Average Score:AOIに相当)が24.0[ECETOCT48(1998)]、かつ7日以内に症状がほぼ回復している(ECETOC TR No.48(2)(1998))ことから、区分2Bとした。
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	十分なデータなし
生殖細胞変異原性	マウスおよびラットを用いた経口投与(マウスの場合はさらに腹腔内投与)による優性致死試験(生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験)において陽性結果(SIDS(2009)、IARC(1988))があるものの、極めて高い用量での知見であり、再現性も認められておらず、標準的 in vivo および in vitro 変異原性試験においても陰性であったことから、証拠の重みづけに基づき区分外とした(Regulatory Toxicology and Pharmacology, 55, 55-68, 2009)。なお、in vitro 変異原性試験として、エームス試験はすべて陰性であり(DFGOT Vol.12(1999)、SIDS(2009)、NTP DB(2009))、染色体異常試験でもCHO細胞を用いた試験1件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった(SIDS(2009))。
発がん性	ACGIH A4
生殖毒性	エタノールに関する疫学情報は多く、これまでの前向き研究あるいはケース・コントロール研究の結果から、一定量以上の飲酒が流産の発生あるいは発生のリスクを有意に増加させることが報告されている(IARC vol.44(1987))。また、妊婦の習慣的な飲酒が胎児に発

<p><b>特定標的臓器／全身毒性(単回)</b></p>	<p>育抑制、小頭症、特徴的顔貌、精神障害などを起こす胎児性アルコール症候群が複数の報告で認められる(IARC vol.44(1987)、SIDS (2009)、DFGOT Vol.12 (1999))。その他に出生前のエタノール摂取による異常として、口蓋裂、手掌線の異常、心房心室中隔欠損、耳管欠損などが見られ、妊婦がエタノールを大量摂取した場合に催奇形性と胎児毒性が強く示唆されるとの記述もある(SIDS (2009))。以上の疫学報告および疫学研究の結果は、ヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるので区分1Aとした。なお、動物試験では、ラットおよびマウスに経口投与による一世代試験では悪影響がなく(SIDS (2009))、マウスの二世世代試験で同腹生存仔数の減少が見られ(SIDS (2009))、また、ラットの妊娠期間中の経口投与による一部の試験で多指症、多合指症などの奇形が報告されている(IARC vol.44(1987))。</p> <p>ヒトに吸入曝露した試験で、昏迷、傾眠、軽度の麻痺が観察されている(ACGIH (2001))。また、エタノール摂取による急性の毒性影響は中枢神経系の障害であると記載され(DFGOT Vol.12 (1999))、重度の中毒では筋失調、霧視、複視、昏迷、低体温、嘔気、嘔吐、痙攣など、大量摂取した場合には昏睡、反射低下、呼吸抑制、低血圧が見られ、さらに呼吸または循環器不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている(Patty (5th, 2001))。上記のヒトでの昏迷、傾眠などの症状に加え、ラット、マウスおよびモルモットに吸入曝露した試験における麻酔、傾眠、運動失調などの症状の記載(SIDS(2009)、DFGOT Vol.12 (1999))に基づき区分3(麻酔作用)とした。一方、ヒトに試験物質蒸気の吸入曝露は低濃度でも眼と上気道に刺激性があるとの記述(ACGIH (2001))、ヒトに吸入曝露した試験で、咳および眼と鼻腔に疼きを感じたとの報告(Patty (5th, 2001))、さらに非耐性の被験者の吸入曝露試験では鼻刺激感が報告されている(Patty (5th, 2001))ことから区分3(気道刺激性)とした。</p>
<p><b>特定標的臓器／全身毒性(反復)</b></p>	<p>ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的器官は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT (1996))との記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、アルコール摂取により重度の身体的依存症となった患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状に加え、しばしば嘔気、脱力、不安、発汗を伴い、アルコールを得るための意図的行動、および反射亢進が顕著となると述べられている(HSDB、(2003))ことから、区分2(中枢神経系)とした。なお、動物試験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットあるいはマウスの90日間反復経口曝露試験の場合、ガイド値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている(SIDS(2009))。</p>
<p><b>吸引性呼吸器有害性</b></p>	<p>データなし</p>
<p>フェノール</p>	
<p><b>急性毒性</b></p>	
<p>経口</p>	<p>414mg/kg</p>
<p>経皮</p>	<p>850mg/kg</p>
<p>吸入</p>	<p>データなし</p>
<p><b>皮膚腐食性・刺激性</b></p>	<p>ウサギを用いた皮膚刺激試験及びヒトへの健康影響データで、皮膚腐食性が認められた。</p>
<p><b>眼に対する重篤な損傷・刺激性</b></p>	<p>ウサギを用いた眼刺激性試験(10%グリセリン溶液、又は5%水溶液の眼への適用)で、角膜の完全な混濁がみられた。</p>
<p><b>呼吸器感作性</b></p>	<p>データなし</p>
<p><b>皮膚感作性</b></p>	<p>モルモットを用いた Mugnussen and Kligman skin sensitization test</p>



<p>7) 及びマウスを用いた MEST 法でともに陰性。9) また、ヒトボランティアの試験で陰性。</p>	<p>7) 及びマウスを用いた MEST 法でともに陰性。9) また、ヒトボランティアの試験で陰性。</p>
<p><b>生殖細胞変異原性</b></p>	<p>体細胞 in vivo 変異原性試験(染色体異常試験)は陽性。経世代生殖細胞 in vivo 変異原性試験のデータはない。</p>
<p><b>発がん性</b></p>	<p>グループ 3。</p>
<p><b>生殖毒性</b></p>	<p>ラットの世代繁殖毒性試験において、親動物に一般毒性影響のみられない用量で、産児数の減少がみられた。</p>
<p><b>特定標的臓器/全身毒性(単回)</b></p>	<p>ヒトで、心臓、血管に対する影響、呼吸数過多、呼吸困難、心臓律動不整、心血管性ショック、重度の代謝性アシドーシス、メトヘモグロビン血症、急性腎不全、腎臓障害、暗色尿、けいれんなどの神経系への影響、心臓の律動異常、不整脈及び徐脈が認められた。実験動物で、瞳孔反射の強い抑制がみられた。標的器官は呼吸器、心血管系、腎臓、神経系と考えられた。</p>
<p><b>特定標的臓器/全身毒性(反復)</b></p>	<p>ヒトで、心血管系疾患に起因する死亡率の増加、13) 非抱合型新生児高ビリルビン血症、7) 吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、溶血性貧血、メトヘモグロビン血症、糸球体変性、尿細管壊死、乳頭細胞出血が認められた。14) 実験動物で、赤血球数の有意な減少、T 細胞依存抗原 に対する抗体産生能の抑制、腎臓で尿細管のタンパク円柱及び壊死、乳頭出血、脾臓/胸腺の萎縮/壊死、肝細胞の空胞変性、中枢神経系への重篤な影響(傾斜板試験上での行動)、肝臓障害がみられた。13) なお、実験動物に対する影響は、区分 1 に相当するガイドランス値の範囲でみられている。標的臓器は心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系と考えられた。</p>
<p><b>吸引性呼吸器有害性</b></p>	<p>データなし</p>

## 12.【環境影響情報】

製品としての環境影響情報がないため以下 CI ベイシックレッド9、イソプロパノール、エタノール、フェノールの有害性情報を記載する。

### CI ベイシックレッド9

急性・魚類(LC50)	データなし
急性・甲殻類	データなし
急性・藻類	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
イソプロパノール	
急性・魚類(LC50)	LC <sub>50</sub> > 100mg/L 96 時間 (ヒメダカ)
急性・甲殻類	900.73mg/L (ブラインシュリンプ)
急性・藻類	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
エタノール	
急性・魚類(LC50)	LC <sub>50</sub> > 100mg/L 96 時間(ファットヘッドミノー)
急性・甲殻類	LC <sub>50</sub> = 5012mg/L 48 時間(ネコゼミジシコ)
急性・藻類	EC <sub>50</sub> = 1000mg/L48 時間

残留性・分解性	良分解
生体蓄積性	データなし
フェノール	
急性・魚類(LC50)	データなし
急性・甲殻類	LC <sub>50</sub> > 3.1mg/L (ネコゼミジンコ属)
急性・藻類	データなし
残留性・分解性	急速分解性 (BOD による分解度: 85%)
生体蓄積性	生物蓄積性が低いと推定される (log Kow=1.46)

### 13. 【廃棄上の注意】

<b>残余廃棄物</b>	<p>廃棄の際は、関連法規ならびに地方自治体の規準に従う。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p>
<b>汚染容器及び包装</b>	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。</p>

### 14. 【輸送上の注意】

<b>国際規制</b>	
海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No	3316
Proper Shipping Name	Chemical Kits
Class	3 (引火性液体)
Packing Group	II
Marine Pollutant	N/A
航空規制情報	ICAOの規定に従う。
UN No	3316
Proper Shipping Name	Chemical Kits
Class	3 (引火性液体)
Packing Group	II
Proper Shipping Name	Chemical Kits
<b>国内規制</b>	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3316
品名	試薬キット
クラス	3 (引火性液体)
容器等級	II
海洋汚染物質	N/A
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3316
品名	試薬キット
クラス	3 (引火性液体)
容器等級	II
<b>特別の安全対策</b>	<p>輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れなどのないことを確かめる。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込</p>

み、荷崩れの防止を確実に行う。  
直射日光を避けて輸送する。

### 15. 【適用法令】

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号: 第57号 CIベイシックレッド9、第494号 イソプロパノール、第61号 エタノール、第474号フェノール ) 名称等を表示すべき有害物(政令番号: 第57号 CIベイシックレッド9、第494号 イソプロパノール、第61号 エタノール、第474号フェノール ) 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)(イソプロパノール、エタノール) 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)(イソプロパノール)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号)(フェノール)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(フェノール)
毒物及び劇物取締法	該当なし
大気汚染防止法	該当なし
海洋汚染防止法	該当なし
消防法	第4類引火性液体 アルコール類
船舶安全法	引火性液体(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
航空法	引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

### 16. 【その他の情報】

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

改訂履歴	2011年12月29日	新規作成	
	2016年06月28日	改訂第一版	15. 【適用法令】労働安全衛生法「名称等を表示すべき有害物」にCIベイシックレッド、エタノールを追加
	2019年08月02日	改訂第二版	15. 【適用法令】労働安全衛生法 「特定化学物質第3類物質(特定化学物質等障害予防規則第2条第1項第6号)(フェノール)」を削除